

信濃町の埋蔵文化財

長野県上水内郡信濃町

平成20年度町内遺跡発掘調査報告書

— 神山B遺跡ほか —

2 0 0 9

信 濃 町 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は平成20年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う試掘調査及び工事立会の報告書である。
2. 調査は国からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆、編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
4. 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。出土資料の記号は神山B遺跡が「08KMB」である。
5. 調査体制は次のとおりである。

調査主体者	信濃町教育委員会	
事務局	教育長	小林豊雄（平成20年10月8日まで）
		静谷一男（平成20年10月9日から）
	教育次長	静谷一男（平成20年10月8日まで）
		山縣一郎（平成20年10月9日から）
	生涯学習係長	丸山茂幸
調査担当者	生涯学習係	渡辺哲也
発掘参加者		
	（神山B遺跡）	石田和子、小日向千代子、田村秀、徳永門、藤田桂子
整理参加者		藤田桂子

6. 小幡博史氏（長岡市立科学博物館）からは縄文土器についてご助言をいただいた。お礼を申し上げる次第である。
7. 調査をおこなうにあたり、次の方々にご協力をいただいた。記してお礼を申し上げる次第である。（敬称略、五十音順）
青木久雄、浅古加代子、久保原利貞、倉島理行、小林敏正、佐藤初男、菅川区、高木光昭、田辺明子、中村賢治、長野地方事務所、野尻湖グリーンタウン、山川正三

目 次

I 信濃町の環境と遺跡	1
1. 自然的環境	1
2. 歴史的環境	2
II 調査の内容及び成果	3
1. 菅川B遺跡	3
2. 家老路城跡	3
3. 神山B遺跡（2008個人住宅地点）	4
4. 照月台遺跡	7
5. 照月台遺跡	8
6. 清明台遺跡	8
7. 上ノ原遺跡	8
8. 東裏遺跡	9
9. 東裏遺跡	10
10. 落影（五廬山）遺跡	10
11. 霊仙寺遺跡	10
写真図版	12

I 信濃町の環境と遺跡

1. 自然的環境

長野県上水内郡信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県妙高市と県境を接している。日本海に面した海岸平野の高田平野と、内陸盆地の長野盆地との間にあたり、西には北から妙高、黒姫、飯縄火山、東には斑尾火山がそびえている。これらの火山に挟まれた地域には、標高650~750mの起伏に富んだ高原状の台地が広がっている。



図1 調査地の位置（信濃町役場平成18年7月作成1/50,000地形図を使用）※番号は表1に対応

表1 平成20年度に調査した遺跡一覧

No.	遺跡名	よみ	原因	調査方法	調査面積	調査期間	出土点数	発掘曜日	終了日
1	菅川B	すがかわびー	林道所建設	立会	(195m ²)	6/28	0点	6/6	
2	家老跡跡跡	かろうじじょうあと	防護柵設置	立会	(54m ²)	10/27	0点	9/30	
3	神山B	かみやまびー	個人住宅建設	試掘	14.0m ²	11/26~12/1	4点	10/31	12/5
4	照月台	しょうげつだい	公園整備	立会	(1,933m ²)	10/15	0点	8/25	
5	照月台	しょうげつだい	個人住宅建設	立会	(225m ²)	11/21	0点	11/5	
6	清明台	せいめいだい	車庫建設	立会	(82m ²)	5/16	0点	3/14	
7	上ノ原	うへのはら	倉庫建設	立会	(220m ²)	6/17	0点	6/10	
8	東森	ひがしうら	個人住宅建設	立会	(770m ²)	5/23	0点	4/18	
9	東森	ひがしうら	倉庫建設	立会	(34m ²)	10/3	0点	9/22	
10	落影(五鳳山)	おちかげ(ごりんやま)	倉庫建設	立会	(105m ²)	10/27	0点	9/18	
11	靈仙寺	りょうぜんじ	倉庫建設	立会	(46m ²)	5/14	0点	5/7	

※調査面積の内、()内の数字は調査対象面積

西側の3つの火山では、南に位置する飯縄山が最も古く、12から13万年前には活動を終了している。黒姫山は古期の活動が16から11万年前で、新期の活動がおよそ6万年前に活発になり、3万年前頃には活動が衰えている。妙高山は新期の活動が10万年前頃にはじまり、約6000年前に中央火口丘が形成され、現在に至っている。これら3つの火山の活発な活動により、各火山体の東側一帯には火山灰層が広く厚く分布している。中部更新統の火山灰層は20~30m、上部更新統の火山灰層は10m程度である。東側の斑尾山は西側の火山よりも古く、およそ30万年前には活動を終えていたと考えられている。この斑尾山の西麓に広がる緩やかな起伏の地形を、黒姫火山の崩壊によって生じた池尻川岩屑なだれ堆積物がせき止めたことにより、およそ7万年前に野尻湖の原型が誕生した。現在の野尻湖は面積が3.96km²で、水面の標高が654mである。こうした東西の火山に挟まれて低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼、河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などが人びとの居住域となっている。

野尻湖の水は池尻川から西へ流れ出し、北へ向きを変えて関川に合流し、日本海へ注ぐ。長野市戸隠を水源とする烏居川は南西方向へ流れ、千曲川と合流し、信濃川となって日本海へ注ぐ。二つの水系の分水嶺は現在の上信越自動車道信濃町インターチェンジ付近と考えられるが、この辺りはなだらかな高原状の地形となっている。

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的涼で、避暑地として利用されている。

2. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであった。野尻湖西岸の湖底に広がる立が鼻遺跡はおよそ4万年前の狩猟・解体場(キルサイト)と考えられており、野尻湖西岸をナウマンソウとそれを追う旧石器人が往来したと考えられる。野尻湖周辺には旧石器時代~縄文時代早期の遺跡が40ヶ所あり、その遺跡のまわりには野尻湖遺跡群と称されている。構成する遺跡はそれぞれ面積が広く、遺物分布の密度も高く、野尻湖の西に連なる丘陵上はとぎれることなく遺跡が繋がっているような印象を受ける。近年、上信越自動車道建設や国道18号線の改築工事などにより、長野県埋蔵文化財センターや信濃町教育委員会によって多数の遺跡で広範囲に渡って発掘調査がおこなわれ、膨大な数の遺物が得られている。それらの遺物をもとに近年、野尻湖遺跡群の編年が提示されている(谷, 2007)。石器石材や石器製作技術は多様で、そうした石器の内容から、各方面からの人々の流入がうかがえる。

古代では東山支道が通っていたと推定されている。また、江戸時代には北国街道が整備され、加賀金沢藩の参勤交代や、佐渡からの金銀の運搬など、重要な街道として利用されていた。現在も国道18号線、上信越自動車道、JR信越本線が通り、交通の要所であることに変わりはない。また、関川がかつての信濃と越後の国ごかいとなっていたため、こうした歴史のある地理的条件も備えた地域でもある。中世の山城が多いことも、交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。

信濃町には現在までに173ヶ所の遺跡が知られているが(信濃町教育委員会, 2003a)、時代により遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が集中する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数が多く、前期以降の遺跡数は少なくなる。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数は少なく、平安時代になると遺跡数が増加する。

Ⅱ 調査の内容及び成果

個人住宅建設に伴う発掘調査と大規模開発に係る試掘調査・確認調査を対象として事業を実施した結果、平成20年度は11ヶ所の開発行為に対して調査等を実施した(図1、表1)。調査方法の内訳は、試掘調査が1件で、残り10件は工事立会である。試掘調査の結果から本調査へ移行する遺跡はなかった。原因では個人住宅及び個人住宅用倉庫・車庫建設が8件、道路脇防護柵設置、公園整備、休憩所建設が各1件となっている。昨年の19件に比して件数は減少した。また、実際に調査に至った遺跡は1ヶ所と少なく、得られた遺物の点数も少量であった。以下に調査の内容と成果を記述する。

1. 菅川B遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字古海4013-2
原因	休憩所建設
調査方法	工事立会
調査面積	195㎡(工事面積)
調査日	平成20年6月28日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯、調査の結果

斑尾山西麓の野尻湖に面した扇状地に菅川の集落があるが、集落のはずれのいちばん標高の高い位置に菅川神社があり、その周辺が菅川B遺跡となっている。「信濃町の遺跡分布図」では縄文と平安の遺跡とされている(信濃町教育委員会、2003a)。この遺跡ではこれまでに発掘調査がおこなわれたことがなく、遺跡の詳細は不明であった。

この遺跡内で、菅川神社に隣接して休憩所の建設が計画された(図2)。建設予定地はかつて建物があった場所とほぼ同じ位置にあたる。以前の建物建設及びその撤去による工事のため、遺跡が残されている範囲は少ないものと考えられ、工事立会とした。遺物包含層は残されておらず、遺構や遺物が確認できなかったことから、調査を終了した。



図2 菅川B遺跡の範囲と調査地の位置



菅川B遺跡 工事立会

2. 家老路城跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻字舟瀬231-3
調査方法	工事立会
原因	落石防護柵設置
調査面積	54㎡(工事面積)
調査日	平成20年10月27日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯、調査の結果

野尻湖の北岸のほぼ中央部に南へ張り出す横ヶ崎と呼ばれる岬があるが、この岬の頂部付近の緩傾斜地一帯が家老路城跡となっている。中世の山城とされているが、詳細は不明である。

遺跡内を野尻湖周遊道路が横断しているが、その道路沿いで崖崩れがおきており、道路脇に落石防護柵を設置するという工事が計画された(図3)。事前に現地踏査したところ、崖の崩落により遺跡は残されていないものと判断されたため、工事立会とし、

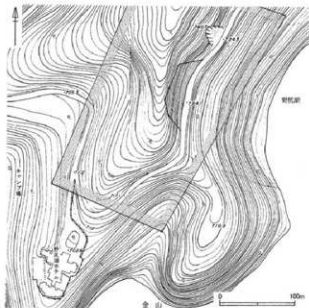


図3 家老路城跡の範囲と調査地の位置

状況の確認をおこなって終了した。

3. 神山B遺跡 (2008個人住宅地点)

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻字神山453-2
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	14.0㎡
調査期間	平成20年11月26日～12月1日
出土遺物点数	4点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯

神山B遺跡は野尻湖の西側に位置する神山と呼ばれる小高い山地从ら北東方向へ伸びる尾根上に位置する。神山一帯は雑木林に囲まれた別荘地となっている。

別荘地内で水明台と呼ばれる地域の一角に個人住宅(別荘)の建設が計画された(図4)。建設地は丘陵状の地形の頂部付近の緩傾斜地であった。この遺跡内で過去に発掘調査は実施されておらず、遺跡の状況は不明であったため、試掘調査を実施することとした。建物は63㎡であったが、138㎡を切り土により平坦に造成する計画のため138㎡を調査対象とした。

C. 調査の方法

造成が計画されている範囲内に試掘トレンチを設定した。調査範囲内は事前に木の伐採が終了していたが、切り株は残っていたため、それを避けるように5～7mの間隔をあけて1.5×0.8mの試掘トレンチを8ヶ所(TP-1～8、TPはテストピットの略)を設置した(図5)。試掘トレンチは地表面から手掘りによりおこない、約4万年前の褐色風化スコリアを含む層など、遺物が出土する可能性が低い層に到達したところで掘り下げを終了した。遺物が出土したトレンチは拡張し、遺物の広がりを確認した。TP-1とTP-5の2地点で縄文土器が出土したため発掘範囲を拡張したが、拡張した範囲から遺物が出土しなかったため、遺物の分布は広がらないことを確認した。こうした状況から本調査は必要ないと判断し、調査を終了した。

D. 調査の結果

a. 層序

調査地の層序は図5に示した。土の色の表記は新版標準土色帖に従った。Iは表土、II、IIIは黒ボク土で、野尻湖周辺で「柏原黒色火山灰層」と呼ばれる地層に対比できる。IV層は褐色土で縄文土器等の遺物を含む。野尻湖周辺では「柏原黒色火山灰層」が縄文時代早期以降の遺物包含層となっている(野尻湖人類考古グループ、1987)が、この地点では褐色土から縄文時代前期の土器が出土した。恐らくこの地点の褐色土(IV層)は「柏原黒色火山灰層」と対比される地層で、地形的な理由により、黒色系の色にならなかったものと思われる。V、VI、VII層は黄褐色系のローム層であるが、層の厚さは周辺地域と比べて薄く、VIII層の褐色風化スコリア(野尻湖周辺で「赤スコ」と呼ばれ、約4万年前に黒殿山から降下した火山噴出物)を含ん



家老路城跡 工事立会



図4 遺跡の範囲と調査地の位置



神山B遺跡 調査地遠景(南から)



神山B遺跡 調査の様子(東から)

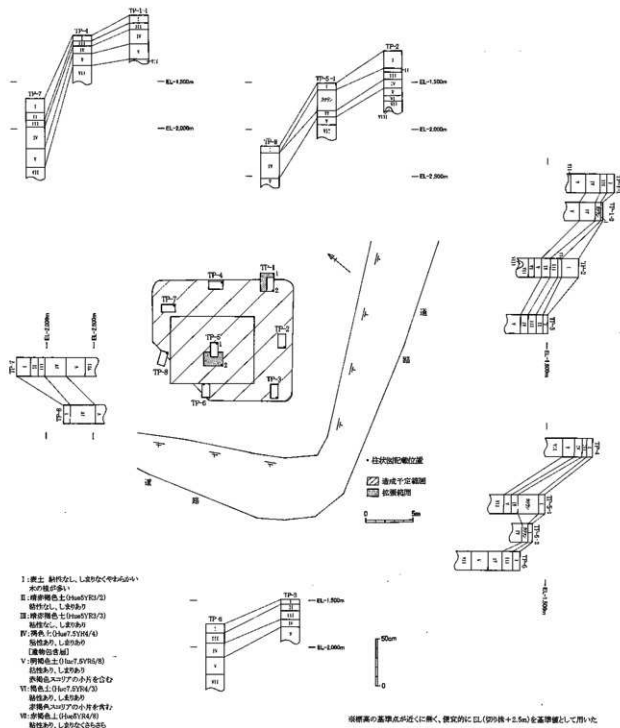


図5 神山B遺跡の調査範囲と土層

である。山地の頂部付近ということで、全体的に各層は薄い印象である。

b. 遺物の分布

TP-1では縄文土器片1点と礫1点、炭1点が出土した(図6)。同層準から出土しており、同時代の遺物と考えられるが、位置関係からは遺構等の存在を想定できない。TP-5からは縄文土器片が1点出土したのみであった。

c. 出土遺物

出土した縄文土器を図7に示し、そのデータを表2に示した。1は深鉢の胴部と思われる、外面には捺糸文により菱形をイメージしたモチーフが表現されている。胎土に少量の繊維を含む。縄文時代前期中葉の有尾式に併行

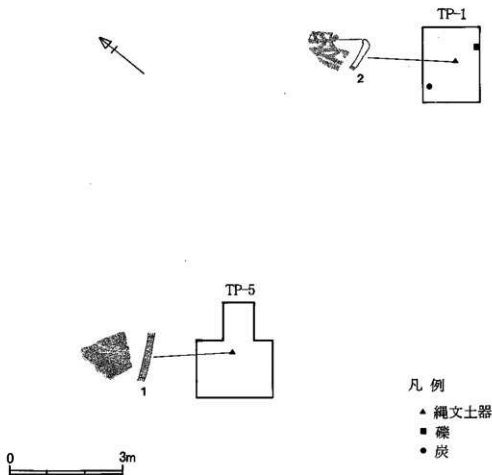


図6 神山B遺跡の遺物の分布



図7 神山B遺跡出土の縄文土器

するものと思われる。2は浅鉢の口縁部と思われる。幅3～5mmの隆帯で直線と曲線が描かれ、隆帯にはヘラ状工具による細かい連続した刻み目が施されている。口唇部には隆帯が弧を描くように施されている。土器の色調は白っぽい印象で、表裏ともに朱彩の痕跡が残る（図8）。縄文時代前期後葉の諸磯b式に併行するものと思われる。

TP-1から礫が1点出土した。大人の拳大の安山岩の亜角礫で、一部に割れが見られる。部分的に赤化したところもあるが不明瞭であるため、調理等に用いられた可能性がある、といった程度にとどめておきたい。

また、TP-1から1.5×1cm程の炭が出土した。

E. まとめ

縄文時代前期の土器2点を含む4点の遺物が出土したが、遺構は検出できなかった。2点の土器の間には時期差がある。こうした状況から、出土した遺物は原位置を保っておらず、流れ込み等によって調査地内へ入ったも

表2 神山B遺跡 縄文土器観察表

図番号	トレンチ	遺物番号	遺物名	部位	出土層準	文様	調整	含有物	縦横	色調		器壁厚さ(mm)	時期	概要
										外面	内面			
1	TP-5	4	縄文土器	胴	IV	単節 RL の 3 条の縄文による墨糸文で菱形モチーフを織く	ナデ	qt,ho,白,赤,小レキ	有り	にぶい黄褐色	橙	6	前期中葉	外面に黒色付着物
2	TP-1	2	縄文土器	口縁	IV	隆帯上にヘラ状工具による連続した刷み目	ナデ	qt,ho,白,小レキ		淡黄	浅黄橙	4-7	前期後葉	内外面に朱彩

qt:石英, ho:角閃石, 白:白色岩片, 赤:赤色岩片, 小レキ:小さな礫を表す

のと考えておきたい。調査地の北東側には丘陵地形の頂部があり、平坦に近い地形が広がる。そうしたところに居住地があり、そこからの遺物の流入と思われる、遺跡の縁辺部と位置づけられよう。

信濃町では縄文時代前期の遺跡の調査例は少なく、日向林B遺跡（信濃町教育委員会，1995）、市道遺跡（信濃町教育委員会，2001）やヒツ栗遺跡（長野県埋蔵文化財センター，2000b）などが報告されているのみである。これらの遺跡との関係も含め、今後の信濃町における縄文時代前期の遺跡を研究する上で、わずかながら資料を追加することができた点が調査の成果と言えよう。



■ は朱彩を表す

図8 神山B遺跡の縄文土器(図番号2)

4. 照月台遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字野尻上ノ原758-1
原因	公園整備
調査方法	工事立会
調査面積	1,933㎡(工事面積)
調査日	平成20年10月15日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯、調査の結果

照月台遺跡は野尻湖の西方およそ500mの丘陵上に位置する遺跡である。上信越自動車道信濃町インターチェンジ付近から北東方向へ下る丘陵の頂部と緩斜面に広がる遺跡で、その大部分が「照月台」という名の別荘地として利用されている。北東側の仲町遺跡と、南西側の貫ノ木遺跡に挟まれるという位置関係にある。1985年に野尻湖発掘調査団により学術調査がおこなわれ（野尻湖人類考古グループ，1987）、1997年には店舗建設に伴う発掘調査がおこなわれている（信濃町教育委員会，2002）。1999年には国道18号線改築工事に伴い4780㎡が調査されている（長野県埋蔵文化財センター，2004）。これらの調査では主に旧石器時代の遺物が多数得られている。

この照月台遺跡内の国道18号線沿いで公園造成が計画された（図9）。かつてテニスコートになっていた場所で、平坦に造成されていた。造成が盛り土によるものか、切り土によるものかは不明であったが、掘削の深度は20cm程度と浅い計画であったため、工事立会に対応した。状況を確認したところ、掘削の範囲はテニスコート造成時の盛り土の範囲内に収まり、黒ボク土以下の地層は保存されると確認できたため、調査を終了した。なお、テニスコート造成時の盛り土の下には、黒ボク土以下の遺物包含層が残されている可能性が高いことが確認できた。今後さらに深く掘削する工事等が計画された場合、発掘調査等が必要となる。



図9 照月台遺跡・仲町遺跡の範囲と調査地の位置



照月台遺跡 工事立会

5. 照月台遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字野尻字上ノ原758-3
原因 個人住宅建設
調査方法 工事立会
調査面積 225㎡ (工事面積)
調査日 平成20年11月21日
出土遺物点数 0点

B. 調査に至る経緯と調査の結果

照月台遺跡内の国道18号線沿いで個人住宅の建設が計画された(図9)。この地点は隣接する店舗建設に先立って1997年に発掘調査がおこなわれた際、追加で試掘調査がおこなわれた場所である(信濃町教育委員会, 2002)。試掘調査では、地表下には55~70cmの埋め土が確認され、さらに下位の褐色ローム層から石器が出土している。その遺物包含層は地表から1m50cm以上下位であることが確認できている。今回の住宅建設では、基礎工事で掘削する深さが埋め土の範囲内に収まり、遺物包含層に達しないと判断されたため、対応は工事立会とし、状況の確認がおこなって終了した。



照月台遺跡 工事立会

6. 清明台遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字野尻1197-320
原因 車庫建設
調査方法 工事立会
調査面積 82㎡ (工事面積)
調査日 平成20年5月16日
出土遺物点数 0点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯、調査の結果

清明台遺跡は野尻湖の西側約1.5kmの台地上に位置する。台地の東側には池尻川低地(西たんぼ)が広がり、東側には北へ流下する池尻川が流れる。川との比高は約25mである。ここ一帯が清明台という別荘地となっている。この地域では過去に野尻湖発掘調査団による地質調査で旧石器時代の石器が採集され(野尻湖人類考古グループ, 1994)、また、2006年には個人住宅建設に伴う発掘調査がおこなわれ、旧石器時代の遺物が多数得られている(信濃町教育委員会, 2007a)。

今回、遺跡内で車庫の建設が計画された(図10)が、基礎工事により掘削する幅が狭小のために発掘調査は困難と判断されたため、工事立会を実施した。掘削の深度は40cm程度で、黒ボク土の範囲内に収まり、旧石器時代の遺物包含層である黄褐色ローム層の深さまで達しないことを確認した。また、黒ボク土からは縄文土器等の遺物も確認できなかったため、調査を終了した。



図10 清明台遺跡の範囲と調査地の位置



清明台遺跡 工事立会

7. 上ノ原遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字柏原字上ノ原182-46
原因 倉庫建設
調査方法 工事立会
調査面積 220㎡ (工事面積)
調査日 平成20年6月17日



上ノ原遺跡 工事立会

出土遺物点数 0点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯、調査の結果

上ノ原遺跡は貫ノ木遺跡と東裏遺跡に挟まれた丘陵上に位置する。遺跡は面積が広く、過去に多数の発掘調査が実施されてきた。主な調査は1990年の開墾に伴う発掘調査（中村, 1992a、1992b）、1994～1995年の上信越自動車道建設に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター, 2000a、2000b）、1995年の店舗兼住宅建設（上ノ原遺跡第4次調査）、個人住宅建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会, 1996）、1995～1996年の県道改良に伴う発掘調査（信濃町教育委員会, 2008b）、1997年のガスパイプライン建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会, 2007b）、2006年の研究所建設に伴う試掘調査（信濃町教育委員会, 2007a）などがあり、主に旧石器時代の多くの遺物が得られている。

上ノ原遺跡内で倉庫の建設が計画された（図11）が、基礎工事によって掘削する範囲は狭く、発掘調査は困難と判断されたことから、工事立会を実施した。現地はすでに削平されて、平坦になっており、旧石器時代の遺物包含層である黄褐色ローム層は除去されていて、遺跡は残されていないことを確認し、調査を終了した。



図11 上ノ原遺跡の範囲と調査地の位置

8. 東裏遺跡

A. 概要

所在地	信濃町大字柏原253-1ほか
原因	個人住宅建設
調査方法	工事立会
調査面積	770㎡（工事面積）
調査日	平成20年5月23日
出土遺物点数	0点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯、調査の結果

東裏遺跡は伊勢見山と国道18号線との間に位置し、伊勢見山の南西の山麓に、北西・南東方向に細長く広がる遺跡である。この遺跡は面積が広いことから、過去に多数の発掘調査が実施されてきた。主な調査は1993年の宅地造成と町道建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会, 2004a）、1993～1995年の上信越自動車道建設に伴う発掘調査（長野県埋蔵文化財センター, 2000a）、1996年のバスストップ建設、個人住宅建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会, 1997）、1997年のガスパイプライン建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会, 2007b）、1999年の個人住宅建設に伴う発掘調査（信濃町教育委員会, 2000）などがあり、ほかにも小規模な発掘調査がおこなわれている（信濃町教育委員会, 2003b、2005、2007a、2008a）。

東裏遺跡内で個人住宅の建設が計画された（図12）が、計画は既存の住宅の南側へ新築するというもので、ここには以前に倉庫が建っていて、現状は平坦に整地されていた。そのため遺跡が残されている可能性は低いと判断し、対応は工事立会とした。基礎工事のため70cm前後の幅で、50cm前後の深さで掘削された地層を確認したところ、建設地は南側へ下る傾斜地を平坦に整地したため、南側は盛土が施されており、黒ボク土以下の遺物包含層が残されていることがわかった。南側を中心に遺構と遺物の確認に努めたが、それらは発見できなかったため、調査を終了した。



図12 東裏遺跡・上ノ原遺跡の範囲と調査地の位置



東裏遺跡 工事立会

9. 東裏遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字柏原353-2ほか
原因 車庫建設
調査方法 工事立会
調査面積 34㎡ (工事面積)
調査日 平成20年10月3日
出土遺物点数 0点

B. 調査に至る経緯と調査の結果

東裏遺跡内で車庫の建設が計画された(図12)。平成14年に個人住宅建設に先立って実施した発掘調査で、260点の旧石器時代の石器が出土した地点(信濃町教育委員会, 2003b)の隣接地のため、石器が出土する可能性があったが、基礎工事によって掘削する幅が狭小なために発掘調査は困難と判断されたため、対応は工事立会とした。工事での掘削の深度は約30cmで、その内、上部の20~25cmは黒ボク土で、5~10cmが黄褐色ローム層であった。平成14年の発掘調査では黄褐色ローム層以下の層準から石器が出土したが、今回は黄褐色ローム層の掘削が5~10cmにとどまったことから、旧石器時代の遺物包含層への影響は少なく、現地で保存されることが確認できたため、調査を終了した。



東裏遺跡 工事立会

10. 落影(五厘山)遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字徳波字古道畑1484
原因 倉庫建設
調査方法 工事立会
調査面積 105㎡ (工事面積)
調査日 平成20年10月27日
出土遺物点数 0点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯、調査の結果

落影(五厘山)遺跡は落影の集落の中央部と五厘山の北側へ下るすそ野に広がる遺跡で、平安と中世の遺跡である(信濃町教育委員会, 2003a)。これまでに発掘調査は実施されておらず、遺跡の詳細は不明である。

落影遺跡内で倉庫の建設が計画された(図13)が、計画では既存の建物を撤去した後、同じ位置へ建設するというもので、既存建物の基礎工事及びその撤去によって大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高いと判断されたため、対応は工事立会とし、状況の確認をおこなって終了した。



図13 落影(五厘山)遺跡の範囲と調査地の位置



落影(五厘山)遺跡 工事立会

11. 霊仙寺遺跡

A. 概要

所在地 信濃町大字大井字家浜2756-1ほか
原因 倉庫建設
調査方法 工事立会
調査面積 46㎡ (工事面積)
調査日 平成20年5月14日
出土遺物点数 0点

B. 遺跡の環境と調査に至る経緯、調査の結果

霊仙寺遺跡は飯縄山の北東側に位置する霊仙寺山の東へ下る緩斜面上に位置する遺跡で、中世の山岳信仰の史跡霊仙寺跡(長野県指定)の範囲がそのまま遺跡範囲となっている(信



霊仙寺遺跡 工事立会

濃町教育委員会, 2003a)。しかし、中世の発掘資料はほとんどなく、平成15年度及び16年度に実施したため池整備関連の発掘調査では縄文時代早期と平安時代の遺物が出土している(信濃町教育委員会, 2004b, 2007c)。

霊仙寺遺跡内で倉庫の建設が計画された(図14)が、建設地には以前に倉庫があり、撤去後は平坦に整地されていた。基礎工事で掘削する範囲が狭小なことから、対応は工事立会とした。基礎工事のために重機によって50~70cmの深さで掘削された地層を見ると、西側は全体が客土されており、東側は上半が客土、下半がシルト層となっていた。遺物包含層である黒ボク土は確認できなかったことから、この地点には遺跡は残されていないことを確認し、調査を終了した。

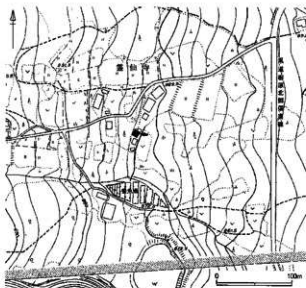


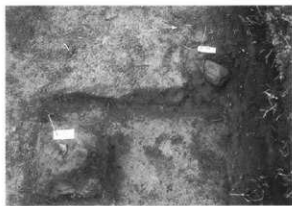
図14 霊仙寺遺跡の範囲と調査地の位置

文献

- 信濃町教育委員会 1995 『貫ノ木遺跡・日向林B遺跡(個人住宅地点)発掘調査報告書』
 信濃町教育委員会 1996 『上ノ原遺跡(4次)ほか発掘調査報告書』
 信濃町教育委員会 1997 『大通下遺跡(4次)ほか信濃町内遺跡発掘調査報告書』
 信濃町教育委員会 2000 『仲町遺跡(個人住宅地点)ほか発掘調査報告書』
 信濃町教育委員会 2001 『市道遺跡』
 信濃町教育委員会 2002 『黒月台遺跡発掘調査報告書』
 信濃町教育委員会 2003a 『信濃町の遺跡分布図』
 信濃町教育委員会 2003b 『平成14年度町内遺跡発掘調査報告書』
 信濃町教育委員会 2004a 『東裏遺跡 東裏団地地点・町道柴山線地点発掘調査報告書』
 信濃町教育委員会 2004b 『霊仙寺遺跡』
 信濃町教育委員会 2005 『平成16年度町内遺跡発掘調査報告書—杉久保遺跡ほか—』
 信濃町教育委員会 2007a 『平成18年度町内遺跡発掘調査報告書—清明台遺跡ほか—』
 信濃町教育委員会 2007b 『上ノ原遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡』
 信濃町教育委員会 2007c 『霊仙寺遺跡(導水管敷設地点)発掘調査の報告』『野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告第15号』
 信濃町教育委員会 2008a 『平成19年度町内遺跡発掘調査報告書—大通下遺跡ほか—』
 信濃町教育委員会 2008b 『上ノ原遺跡(第5次・東道地点)』
 谷和隆 2007 『野尻湖遺跡群における先石器時代石器群の変遷』『長野県立歴史館研究紀要 第13号』
 長野県埋蔵文化財センター 2000a 『上位越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15—信濃町内その1—裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡』
 長野県埋蔵文化財センター 2000b 『上位越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16—信濃町内その2—縄文時代~近世編』
 長野県埋蔵文化財センター 2004 『一般国道18号(野尻バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書2—信濃町内その2—貫ノ木遺跡・黒月台遺跡』
 中村由克 1992a 『速報 長野県上ノ原遺跡における細石器文化の遺構(Ⅰ)』『考古学ジャーナル№342』
 中村由克 1992b 『速報 長野県上ノ原遺跡における細石器文化の遺構(Ⅱ)』『考古学ジャーナル№344』
 野尻湖人類考古グループ 1987 『野尻湖遺跡群の旧石器文化Ⅰ』
 野尻湖人類考古グループ 1994 『野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化』『野尻湖博物館研究報告第2号』



1. 神山B遺跡 TP-1の遺物の出土状況(遠景, 南西から)



2. 神山B遺跡 TP-1の遺物の出土状況(近景, 南西から)



3. 神山B遺跡 TP-5の遺物の出土状況(遠景, 北西から)



4. 神山B遺跡 土層(TP-2南壁)



5. 神山B遺跡 縄文土器(図番号1)の出土状況



6. 神山B遺跡 縄文土器(図番号2)の出土状況



7. 神山B遺跡出土の縄文土器

報告書抄録

書名	平成20年度町内遺跡発掘調査報告書							
副書名	神山B遺跡ほか							
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財							
シリーズ番号								
編著者名	渡辺哲也							
編集機関	信濃町教育委員会							
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL: 026-255-5923							
発行年月日	2009年(平成21年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おのやまー 神山B	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字神山453-2	205834	44	36度 49分 36秒	138度 12分 10秒	20081126 ～ 20081201	14 (工事面積138)	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺物		特記事項		
神山B	散布地	縄文時代前期中葉～後葉		縄文土器など 4点		有尾式、踏碇B式併行土器出土。		

平成20年度町内遺跡発掘調査報告書

— 神山B遺跡ほか —

発行 平成21年(2009)3月31日
 発行者 信濃町教育委員会
 〒389-1305
 長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2
 TEL 026-255-5923
 印刷 信何書繪印刷株式会社
 〒381-0037
 長野県長野市西和田1-30-3
 TEL 026-243-2105

2 0 0 9

Shinano-machi Board of Education.

Kamiminouchi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.